

市町村名	伊平屋村									
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1-④ 海浜公園植栽等整備事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ				
						観光客の受入体制の整備				
担当部課名	建設課			事業実施(予定)年度	平成24～平成28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)		
事業内容	沖縄らしい原風景の創出と安心、安全で利便性、快適性の高い観光地づくりを目指し、台風や塩害に強く、緑陰機能に優れた在来樹種への植栽転換を実施する。また、ハブ対策として防蛇網の整備を行う。									
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）									
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	26年度	27年度	28年度			
	予算の状況	(a)当初予算額	25,839	-						
		(b)予算現額	16,239	1						
		(c)増減額(b-a)	▲9,600	1						
		(d)繰越額	—	16,239						
		A.計(b+d)	16,239	16,240						
	B.執行済額		0	16,240						
	うち交付金充当額		0	12,991						
	次年度繰越額		16,239	0						
	執行率(%) (B/A)		0.0%	100.0%						
予算の状況の説明		本事業の整備主旨は喪失した緑陰機能の回復とあわせ在来樹種による海浜景観の復元であったため、当初予定していたフクギやガジュマルを対象樹種として選定していたが、地域住民からガジュマルに代わるモンパやビロウの植栽の要望が上がったことから、島内に調達可能かを含め対象樹種の選定に2ヵ月を要することとなった結果により業務範囲の確定が出来ず発注時期に遅れが生じ、工事が年末へずれ込んでしまったが完了することが出来たことで適正に執行できた。								
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)			達成状況						
				24年度	25年度	26年度	27年度			
	植栽計画策定業務	目標	(計画策定)							
		実績	完了							
	緑陰植物植栽植栽工事	目標	(植栽工事)							
		実績	完了							
	ハブ侵入防止工事	目標	(防蛇フェンス)							
		実績	完了							
	達成状況説明	喪失した緑陰機能の回復とあわせ在来樹種による海浜景観の復元であったため、樹種を含め地元生産で苗木を生産し、今後住民の自らの力で島内の緑化、景観保全活動を行っていく走りだしとして計画を策定することを目的としたことで、植栽講習会や地元集落での生産ができるのかを確認し意識高揚を図るためにも実施場所の集落で地元住民へ事業説明を含めた懇談会を行う必要があり、昔の風景を思い浮かべながらお年寄りから意見を徴し、幅広い年齢層による樹種選定や昔ながらの植栽方法を学び、今回実施分のヒルガオの生産を島内集落に実施してもらった。 計画完了に時間は要したが、生産したヒルガオは約70%程度使用可能であり、今後の島内生産の意欲性を高めた。 また、計画継続でH26年度も引き続き工事を実施する。								
	成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(24年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)		
植栽計画策定業務		目標	(計画策定設計業務)	(一式)						
		実績		一式						
緑陰植物植栽植栽工事		目標	(0)	(570㎡)						
		実績		570㎡						
ハブ侵入防止工事		目標	(0)	(55m)						
		実績		55m						
進捗状況説明		実施設計において、植栽樹種等の検討及び地元生産で設計完了に時間は要したが、計画どおりの事業展開ができた。 本事業で、今年度において米崎海浜公園東側を実施したことにより、木々の生長とともに公園内の防風効果が発揮され、今後予定している園内植物の生長及び利用者に大きく寄与できる。 また、園内で立ち枯れし、景観を損なっていたモクマオウを撤去し、植栽帯の砂止め柵及び帯砂策の設置を行い海浜景観の修景対策をする事ができ、ハブフェンスを設置することで、キャンプ客の安心安全を確保することができた。								

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	住民自らの力で島内の緑化、景観保全活動を行っていくためにも、在来種を選定し、村内老人会や婦人会の協力を仰ぎながら地元で生産を行いながら事業展開を行い、当事業の延長上で、村内の防潮・暴風林の復元等原風景の回復を目的とするが、樹種の生産ノウハウ等を専門家の指導を受けながら進める必要がある。 また、島周辺海域の景観復元や集落内の緑化等の事業への展開も検討する必要がある。	集落ごとに植栽植物の生産を行ってみたが、高齢者の多い地区や集落内で管理を行う場所、人が確保できないと言うことで生産できないという集落もあった。 在来種で安易に確保でき、管理のしやすい植物を取入れることも考慮しなければならない。
今後の取り組み方針		
平成24～25年度において、緑化計画の策定ハブ対策の設計を行い、海浜公園の東側の海浜修景対策及び植栽を行い、平成26年度には東側から南側に掛け園内の緑陰植物の植栽、海浜の修景暴風対策を実施し、平成27年度では本施設の入口となる西側の暴風対策を考慮した緑陰植物の植栽をする事で、沖縄らしい風景を創造し、緑陰機能に優れ、安心安全で快適な観光地づくりを目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
16,240	16,240	12,991	3,249	

伊平屋村
16,240千円

委託料
7,654千円

(有) MUI景画
7,654千円

海浜公園植栽整備計画 (植栽) にかかる委託業務
に係る経費

工事請負費
8,586千円

(有) 優心開発
8,586千円

海浜公園植栽整備 (植栽) にかかる整備工事に係
る経費

資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託、請負ともに指名競争入札により発注を行った。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤ 干ばつ対策事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ 亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24年度～平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(6)		
事業内容	夏場や作付け時期となる終期・春期の水不足に対応するため、作業効率の高いマリンタンクの設置と送水ポンプを設置し、生産性の効率化と農家所得の向上を目指す。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	9,200	-			
		(b)予算現額	15,000	-			
		(c)増減額(b-a)	5,800	-			
		(d)繰越額	-	15,000			
		A. 計(b+d)	15,000	15,000			
	B. 執行済額		0	2,258			
	うち交付金充当額		0	1,806			
	次年度繰越額		15,000	0			
	執行率(%) (B/A)		0.0%	15.1%			
予算の状況の説明		H24年度繰越分の執行について、実施設計にあたり、地元農家からの設置位置及び管路敷設に係る設計見直しで不測の日数を要したため、工事発注が遅れた。また、工事発注で、入札不調が生じ年度内いでの工事発注が見込めないことから、H25年度以降の工事発注で検討した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	マリンタンク(21t)設置	目標	(10カ所)	()	()	()	
		実績	-				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	設計業務においては、地元との調整で時間を要し、12月末日をもって業務が完了した事で工事の発注が遅れた。また1月末日に工事発注を予定したが、サトウキビ収穫最盛期と重なり工事の施工が困難であることや、マリンタンク資材が受注制作のため、工期内納品が困難、ポンプ小屋においては、建築作業員不足による工期内完了が困難となり、入札が不調に終わり、工事完了が困難な状況となたため、本年度事業については、設計業務のみの完了となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(26年度)
	マリンタンク(21t)設置	目標	(-)	(10カ所)	()	()	(10カ所)
		実績		-			
	[参考指標]	目標	(-)	()	()	()	()
		実績		-			
	進捗状況説明	工事発注で入札不調が生じ、工事の工期内完了が厳しくなったため、設計業務のみの完了となった、全体の15パーセント程度の成果に終わった。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	・本事業の推進については、事前に地域住民との調整を確実に整理しておく必要があった。設計段階でタンクの設置位置の変更要請等々が生じ、地域住民の理解を得るのに不足の日数を要した。 ・近年の社会情勢から、資材の高騰や受注制作による工期の延長、建築工事等の増加に伴い作業員不足等々、工期内完了が見込めないため各種工事の入札不調が多く、発注時期の調整が求められている。	・本事業の推進については、これまで以上に住民との連携を図り、情報の共有を密にし、調整を確実に整理していく必要がある。 ・近年の社会情勢から、資材の高騰及び建築工事等の増加に伴う各種工事の入札不調等を解消するため早期の事業を発注し、工事期間の確保と適正に事業が遂行できるよう実施していくことで改善を図っていく。
今後の取り組み方針		
・地域との調整を密にし、情報の共有を図り、事業が適正に遂行できるよう連携し、早期に事業を進め、施設の完了を目指していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)				
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		2,258	2,258	

伊平屋村
2, 258千円

→

委託料
2, 258千円

→ 指名

(有) 協進技研
2, 258千円

【 平成24年度野甫地区干ばつ対策施設整備測
量設計委託に係る経費 】

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札により実施したので妥当と考える。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村						
平成 2 4 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2－⑦ モズク用資材保管倉庫整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－エ		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成 2 4 ～ 2 5 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化		
	Ⅲ－1－(6)						
事業内容	台風時におけるモズク用資材の保管倉庫を整備し、漁家経営の安定化と担い手支援を行う。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)		24年度	2 4 年度(繰越)	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	40,000	-			
		(b)予算現額	41,500	-			
		(c)増減額(b-a)	1,500	-			
		(d)繰越額	—	24,043			
		A. 計(b+d)	41,500	24,043			
	B. 執行済額		17,457	24,043			
	うち交付金充当額		13,965	19,183			
	次年度繰越額		24,043	0			
	執行率（％）(B/A)		42.1%	100.0%			
予算の状況の説明		施設計画にあたり漁協との施設整備規模の決定に不測の日数を要した					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	モズク用資材倉庫建築工事	目 標	(一式)	()	()	()	
		実 績	一式				
	荷役設備(フォークリフト)	目 標	(1台)	()	()	()	
		実 績	1台				
達成状況説明	整備工事については、鉄骨など資材の遅れから、行程の遅れはあったが、ほぼ工期どおりで完了した。 また、フォークリフトの購入については、行程どおりの納入ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	モズク収穫量	目 標	()	(1300t)	()	()	()
		実 績		827t			
	[参考指標]	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	当初、本年度モズク収穫量を1300tと見込み生産者も意欲を見せていたが、収穫前の3月後半の低気圧による時化の景況で、収穫前のモズク床が打撃を受け、収穫量が460t程度減少した。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	当該施設を整備したことにより、安定したモズク資材等の供給が図られ、荒天時や台風時のフェリー欠航によるモズク資材のストック量不足によるモズク工場の閉鎖及び閉鎖に伴うモズク原料の受入拒否等が改善され、漁家経営の安定化が図られた。	今回モズク資材の保管をメインに計画実施したが、このような施設の効率的な利用を促進するための利用計画等の整備が今後必要となる。
今後の取り組み方針		
今回モズク資材の保管をメインに計画実施したが、このような施設の効率的な利用を促進するための利用計画等の整備が今後必要となる。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		41,552	41,500	33,200
				市町村負担金
				8,300
				交付対象外経費
				52
伊平屋村 41, 500千円 役務費 65千円 委託料 3,145千円 工事費 36,557千円 備品購入費 1,733千円 上城技術情報(株) 3,145千円 三伊土木(有) 36, 557千円 沖繩トヨタ自動車(株) 1,733千円 建築確認申請手数料 伊平屋村漁業協同組合モズク資材倉庫設計業務委・施工管理業務委託に係る経費 伊平屋村漁業協同組合モズク資材倉庫新築工事に係る経費 伊平屋村漁業協同組合モズク資材倉庫整備フォークリフト購入事業に係る経費				
資金使途の流れ、点検評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事・委託料・備品購入の支出先選定には指名競争入札により決定した。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	伊平屋村						
平成 2 4 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2－⑧ 漁船避難施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－カ		
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成 2 4 ～ 2 5 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)		
事業内容	台風や荒天時の漁船等の陸揚げ施設として巻き揚げ機を整備し、漁家経営のリスク軽減化や観光遊漁船の安全性を確保し漁業、マリンレジャー等の産業支援を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)		24年度	2 4 年度(繰越)	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	13,000	-			
		(b)予算現額	13,500	23			
		(c)増減額(b-a)	500	23			
		(d)繰越額	—	8,586			
		A. 計(b+d)	13,500	8,609			
	B. 執行済額		4,914	8,609			
	うち交付金充当額		3,931	6,869			
	次年度繰越額		8,586	0			
	執行率（％）(B/A)		36.4%	100.0%			
予算の状況の説明		施設計画にあたり港湾利用者及び漁協組合員との施設整備位置・巻揚機器等の大きさの決定に不足の日数を要した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	船舶陸揚げ機器の整備	目 標	(1 基)	()	()	()	
		実 績	1基				
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	前泊港船上場利用者及び漁協組合からの要望があり、前泊港船上場内に巻揚施設及び船台を整備した。整備にあたり、港湾管理者である沖縄県北部土木事務所及び利用者・漁協組合と調整を図り、整備位置・規模等を確定した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	船舶陸揚げ機器の整備	目 標	()	(1 基)	()	()	()
		実 績		1基			
	[参考指標]	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	これまで、緊急的に大型漁船及び遊漁船を修理する場合に沖縄本島まで曳航して修理することも度々あり、漁家経営の負担となっていたが、施設整備されたことにより、漁家経営のリスク軽減及び遊漁船等を定期的に陸揚げ整備することによりマリンレジャー等の安全確保が可能となった。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	施設を運用するに当たり、一般住民も施設を利用するので、施設管理者である、伊平屋村漁協にプレジャーボート利用者と漁協組合員が並行して使用する場合に、どちらが優先して使用するかの問い合わせ等があり、伊平屋村漁協と協議した結果、一般住民使用者を優先する等調整を図った。	現在、海面養殖を中心とした漁業形体が主であるが、近年、近海漁業(マグロ業)や観光遊漁船への若い従事者が増えてきており、漁船等の大型化に伴う陸揚げ施設及び船台の設置が急務であった。今回、施設を整備したことにより、船底清掃作業が容易に行え燃費向上が可能となった。また、併せて定期的に修理を行うことで安心して漁業及び観光遊漁に取りくめるようになる。
今後の取り組み方針		
若い漁家や観光遊漁船従事者等との意見交換や需要調査等を実施し、利用計画等の策定を進める必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13,523</td><td>13,523</td><td>10,800</td><td>2,723</td><td></td></tr> </tbody> </table> 伊平屋村 13, 523千円 委託料 1,166千円 上城技術情報 (株) 1,166千円 前泊港船揚場巻揚施設設計業務委託に係る経費 工事請負費 12,357千円 (有) 伊平屋興業 12,357千円 前泊港船揚場巻揚施設新築工事に係る経費 対象外経費22千円含む					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,523	13,523	10,800	2,723	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
13,523	13,523	10,800	2,723											
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先選定には指名競争入札により決定した。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成 2 4 年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4－⑤ 高齢者福祉施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(3)－ア		
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせる環境づくり		
事業内容	島内に一か所しかない高齢者福祉施設の需要増加によるデイサービス時のトイレや洗面等の待ち時間を解消するため既存施設の機能強化を行う。また、ショートステイや緊急避難時の在宅介護者の受入に対応するため、既存事務所や倉庫の増改築に係る設計業務を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	49,167	-			
		(b)予算現額	49,167	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	—	42,239			
	A. 計(b+d)		49,167	42,239			
	B. 執行済額		6,930	42,239			
	うち交付金充当額		5,544	33,789			
	次年度繰越額		42,237	0			
	執行率(%) (B/A)		14.1%	100.0%			
予算の状況の説明		利用者自身の利便性向上のための検討委員会上で設計プランの見直しや設計変更の意見が出たため、実施設計における修正設計に時間がかかったこと、利用者が施設を一部利用しながら工事を進める必要があることから工事期間を延長する必要があり繰り越したが、執行については年度初めに工事発注できたことにより工程通り執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	施設機能強化・増設工事に係る実施設計及び施設機能強化工事の実施	目 標	(一式)	()	()	()	
		実 績	一式				
達成状況説明	トイレや風呂場、居室の洗面台の改善により、待ち時間が短縮し、利用時の快適性も向上し、快適な施設の利用が促進された。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	高齢者福祉施設の機能強化工事着手	目 標	(0)	(一式)	()	()	()
		実 績		一式			
						()	()
	進捗状況説明	風呂場やトイレ居室の洗面台等、利用者の実態に合った改築により、現施設の機能強化が図られ、利用者の快適性が向上した。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	風呂場やトイレ、居室の洗面台等、利用者の実態に合った整備により、施設入居者やサービス利用者の快適な施設利用が促進された。	風呂場やトイレ、居室の洗面台等、利用者の実態に合った整備により、施設入居者やサービス利用者の快適な施設利用が促進された。しかし、高齢化率の進む本村の現状から、施設の手狭な状態は未だ改善はされていない。その為、入居施設及びリハビリ施設等の増設が必要になる。
今後の取り組み方針		
当施設の整備により、施設入居者やサービス利用者の快適な施設利用が促進された。しかし、高齢化率の進む本村の現状から、施設の手狭な状態は未だ改善はされていない。その為、入居施設及びリハビリ施設等の増設が必要になる。 26年度で更に増床のための整備を予定している。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>49,169</td><td>49,169</td><td>39,333</td><td>9,836</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	49,169	49,169	39,333	9,836	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
49,169	49,169	39,333	9,836	0										
伊平屋村 49,169千円 委託料 9,082千円 上城技術情報 (株) 6,930千円 伊平屋村生活支援ハウス増改築設計業務委託に係る経費 委託料 9,082千円 上城技術情報 (株) 2,152千円 伊平屋村生活支援ハウス増改築監理業務委託に係る経費 工事請負費 40,087千円 (株) 太名嘉組 30,975千円 伊平屋村生活支援ハウス増改築工事に係る経費 工事請負費 40,087千円 仲川電設 9,112千円 伊平屋村生活支援ハウス増改築設備工事に係る経費														
資金の流 れ、使 途の 点 検 、 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○選定方法は指名競争入札であり、適正に行われている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	伊平屋村						
平成 2 4 年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-⑦ コミュニティビジネス支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-2-(7)-イ		
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成 2 4 ~ 2 5 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流と共創による農産漁村の活性化 III-9	
事業内容	コミュニティビジネスの拠点施設としてさとうきび関連商品や野草、薬草等の加工、販売施設を整備する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他（ ）						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	24,603	—			
		(b)予算現額	53,892	—			
		(c)増減額(b-a)	29,289	—			
		(d)繰越額	—	49,007			
		A. 計(b+d)	53,892	49,007			
	B. 執行済額		4,885	0			
	うち交付金充当額		3,907	0			
	次年度繰越額		49,007	0			
	執行率(%) (B/A)		9.1%	0.0%			
予算の状況の説明		2面道路に面した本施設整備地において間口の方角や駐車場位置等、全体的な配置計画において住民より変更要望が上がったことから、既設上下排水位置との接続方法や建設用地の有効的な活用方策について見直しを行った結果、整備面積の確定に約5ヵ月を要し、実施設計の発注時期に遅れが生じた。また、工事で、施設配置の変更に伴う配水管及び下水管の延伸工事(一次側)が必要となり、上下水道管理者の施工後に接続工事(二次側)を行う必要が生じたことから、その分、工事期間を延長する必要がある。繰越分については、本村発注工事については市場単価の高騰により発注工事が軒並み入札不調となる中、本事業においても積算等の見直しにおいて、執行可能予算をオーバーし設計が組めない状況になった。その為村単費で不足分の調整を検討したが、別件建築工事等も同様な状況で、不足分の予算確保が困難とったため、建築工事について、次年度以降発注とした。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	加工施設整備工事	目 標	(一式)	()	()	()	
		実 績	設計業務のみ				
達成状況説明	繰越分については、本村発注工事については市場単価の高騰により発注工事が軒並み入札不調となる中、本事業においても積算等の見直しにおいて、執行可能予算をオーバーし設計が組めない状況になった。その為村単費で不足分の調整を検討したが、別件建築工事等も同様な状況で、不足分の予算確保が困難とったため、建築工事について、次年度以降発注とした。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(28年度)
	加工施設整備工事	目 標	(0)	(一式)	()	()	()
		実 績		設計業務のみ			
						()	()
進捗状況説明	本村には建築の資格保持業者が3社しかなく本島からの資格保持業者を含めて5社以上で入札となる。しかし、建築工事については、工種が多いためほとんどが島外からの下請けで、特に建築工事に係る型枠工や鉄筋工の確保が出来ないことで入札等での折り合いが付かず不調になってしまうことから、当工事の積算の見直しを行った、しかし宿泊経費等を加算した金額での積算が困難となった。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	建築工事が次年度以降になったことから、施設運用等諸計画の見直しが必要となる。また、地域情勢の変化からコミュニティの形成等調整をする必要がある。 また、工事積算の見直しや村外(本島)の建設関係の情勢も考慮しながら発注時期を見極める必要がある。	建築工事の遅れから、地域の意識の低下が懸念されるため地域コミュニティのさらなる向上が必要。
今後の取り組み方針		
本村においては、H25年度に入札不調等により発注が出来なくなり繰越となった工事及びH26年度新規で実施予定の建築工事が6件ありH25年度とほぼ同じ状況にある。また、各種事業計画では今年度順調にいけば、建築工事はほぼ完了するため、本年度分の建築工事の状況をして発注計画を行うこととした。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,885</td><td>4,885</td><td>3,907</td><td>978</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,885	4,885	3,907	978	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,885	4,885	3,907	978	0										
伊平屋村 4,885千円 → 委託料 4,885千円 → (株)アトリエ天工人 4,885千円 〔コミュニティビジネス支援施設設計業務委託に係る経費〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価、 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約について この業務についてはバリアフリーやユニバーサルデザインへの対応や共同作業の指導、監督及び地域住民を含めた意思決定プロセスの構築や整備に係る行動計画の策定など、高度な専門知識と豊富な経験が必要とすることから一般建設コンサルタント等への委託は適合しないため。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	×	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												